

**販** 管費は、商品・製品の販売やサービスの提供など売上高をあげるためにかかった販売手数料・広告宣伝費などの販売費と企業全体の管理業務にかかる一般管理費の合計です。決算書では販管費として一括で計上されていますが、販管費を見るときは販売費と一般管理費で区別することが重要です。

販売費の代表例は、広告宣伝費、販売手数料、荷造運賃などです。広告宣伝費は広告費やチラシ印刷代の作成費用など、販売手数料は委託業者や販売代理店などへの支払手数料など、荷造運賃は商品発送のために必要な運送費用や、梱包資材の費用などのことです。

一般管理費の代表例は、給与手当、水道光熱費、通信費、地

また販管費は、経費削減の視点で見ることが多く、金額の大きいものについて、それが本来に必要か、無駄な経費ではないのかをチェックし削減させることで利益の改善を指導します。

多くの企業は厳しい経営環境の中で、経費削減の努力を実行しており、このような経営者の目を開くアドバイスを行うことは、経費をどう有効に使えば、売上・利益を伸ばすことができるのか、非常に効果的な取り組みだといえるでしょう。

**減** 償償却費とは、1年以上の長期にわたって使用し、事業に貢献するものです。例えば車両を取得したときに、その取得額をその耐用年数に応じて費用を計上します。

建物、機械、備品、車両などの固定資産は数年、数十年もの長期間にわたって使用し、事業に貢献するものです。例えば車両を取得したときに、その取得額をその耐用年数に応じて費用を計上します。

減価償却費の計算方法には、**定額法と定率法**があります。定額法は耐用年数にわたって、均等に同額の減価償却費が計上されます。取得価額×償却率（耐用年数によって変動）で求められます。

固定資産としてまだ保有する

減価償却費は、非現金支出費用として、過去の取得原価が配分された費用ですので、費用を計上した会計期間においては**実際の現金の支払いがありません**。したがって減価償却費はキャッシュフローとして見ることができません。

**キャッシュフローとして見る**

減価償却費は、非現金支出費用として、過去の取得原価が配分された費用ですので、費用を計上した会計期間においては**実際の現金の支払いがありません**。したがって減価償却費はキャッシュフローとして見ることができません。

## 2 販管費（販売費及び一般管理費）



# 決算書を読み解くうえで押さえておくべき勘定科目を理解しよう

ここでは、決算書を読み解くうえで押さえておきたい勘定科目を損益計算書・貸借対照表からそれぞれ挙げポイントを解説します。

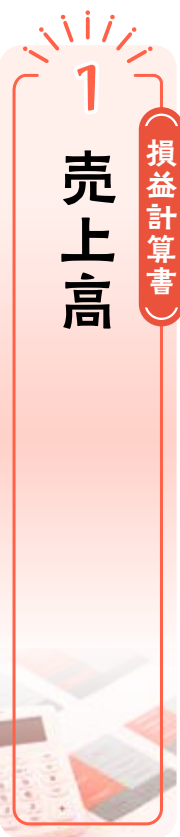
ファイナンススタイリスト | 黒木 正人  
行政書士事務所長

I 売上高
売上原価
売上総利益
II 売上費用
販売費
一般管理費
売上総利益 - 売上費用
営業利益
III 営業外収益
営業外費用
経常利益
IV 経常外収益
経常外費用
当期純利益

現金及び預金
受取手形及び売掛金
仕掛品
原材料及び貯蔵品
未収入金
預け金
繰延税金資産
その他
流動資産
固定資産
負債
純資産

## 1 売上高



**売** 売上高は、事業活動すなわち商品・製品の販売またはサービスの提供などにより得る金額の総計であり、事業活動の根幹を見極める勘定科目の1つです。事業活動の良し悪しを判断するうえで、少なくとも**3期分の損益計算書を並べ、売上高の推移を把握**することが大切です。その推移を見て、急増や急減している場合には、要因について経営者にヒアリングする必要があります。

売上高から企業の事業性を評価するためには、売上高の内訳を把握し、商品・製品別、顧客別、支店別などでどう推移しているかを見極めます。しかし決算書ではその内訳は見えませんが、経営者・経理担当者へのヒ

アリングをここでも行います。**大きく融資の規模感を把握**

決算書からは全体の売上高しか把握できないことから、売上高からは会社の規模感を見ます。「このくらいの売上高ならどの程度の融資が可能か」と**大きく融資の規模感を把握**する必要があります。

例えば宿泊業では、総融資額が売上高を超えると事業の継続性が危ぶまれます。そうすると業種によってこの売上高であれば融資限度はこれくらいだなどと判断できるのです。売上高は財務分析では、収益性分析でよく用いられます。売上高総利益率、売上高経常利益率、売上高営業利益率など企業の収益を見らるうえで売上高は欠かせません。

## 3 減価償却費

